

女性放射線腫瘍医の会（JAWRO）特別企画講演会（日本医師会共催）座長報告  
市立四日市病院 放射線科 佐貫直子

2023年12月1日(金)午後3時半から1時間、パシフィコ横浜ノース（横浜市）にて標題のJAWRO企画講演会が開催されましたのでご報告いたします。今回は、「放射線治療分野における男女共同参画・ダイバーシティの現状と題し2名の演者の先生にご講演いただきました。当日は学術大会中日の午後でしたが、80名の参加者にお集まりいただきました。

最初の演者として、Ritsuko Komaki先生（MD アンダーソン癌センター名誉教授、ベイラー大学医学部非常勤教授）に、「Gender Equality in the Radiation Oncology Physician in the USA and Japan」というタイトルでご講演いただきました。Komaki先生は日米の放射線治療の架け橋としての先駆的存在で、JAWROの名誉顧問として設立当初からご支援いただいている先生です。

ご講演の中で、放射線の分野で女性のごく少数派だった時代に比べると、放射線腫瘍医の女性割合が徐々に増加して現在は約3割弱を占めること、しかしながら他分野と比較すると少なく増え続ける潜在的な放射線治療患者さんのニーズを充足しているとはいえないこと、また特に最近の減少傾向が懸念されることなどを、データをお示しいただきながら解説いただきました。米国でさえ、この分野で代表的な地位にある女性が少ないことは意外に思われました。そして、効果的な改革のために集中的な取り組みが必要であること、具体的には、女性対象のサマープログラムや、医学生への早期アプローチなどが重要であると述べられました。また、若い世代に対して、放射線腫瘍学を教えるのではなく、腫瘍学を教育する必要があることを強調されました。これらは、単身で米国に渡り一から米国のトレーニングをお受けになり、最終的に放射線治療の分野で多大なる業績を残しつつ要職もお務めになったKomaki先生からの、実体験に基づいた貴重なメッセージであると感じました。

今回のご講演は、Komaki先生の英語のご発表スライドの下に、AI自動翻訳が字幕をつけるという、今学会で初めて採用された方式でしたが、多くの人にとって字幕が不要なほどKomaki先生はゆっくりとした英語で分かりやすくお話しくださいました。

続いて、JASTROの専務理事の溝脇尚志先生（京都大学大学院医学研究科 放射線腫瘍学・画像応用治療学 教授）による「JASTROにおける男女共同参画・ダイバーシティの現状と将来展望」と題する御講演をいただきました。溝脇先生は、放射線治療の利用率が低いこと、診療報酬が不十分であること、放射線腫瘍医が大きく不足していることなどを様々なデータでご説明下さり、日本の放射線治療の現状と問題点を改めて俯瞰的に認識することができました。これらの問題に対して学会として取り組んでいる内容をご紹介頂きましたが、中でも男女共同参画・ダイバーシティに関しては、出産・子育て支援としてJASTRO学術集会での託児所・親子視聴室設置していることや、今回の社員総会で代議員定数の見直しとダイバーシティ枠の設置が提案されたことが紹介されました。この方針は学会の定款細則を変更する大きな改革で、多様な人材が共に貢献することが必要とされる時代が来つつあることを感じました。

ご講演いただいたお二人をはじめ、大会事務局の方々、準備や受付を快くお引き受けくださいました方々、大変ありがとうございました。